

ここから始まる

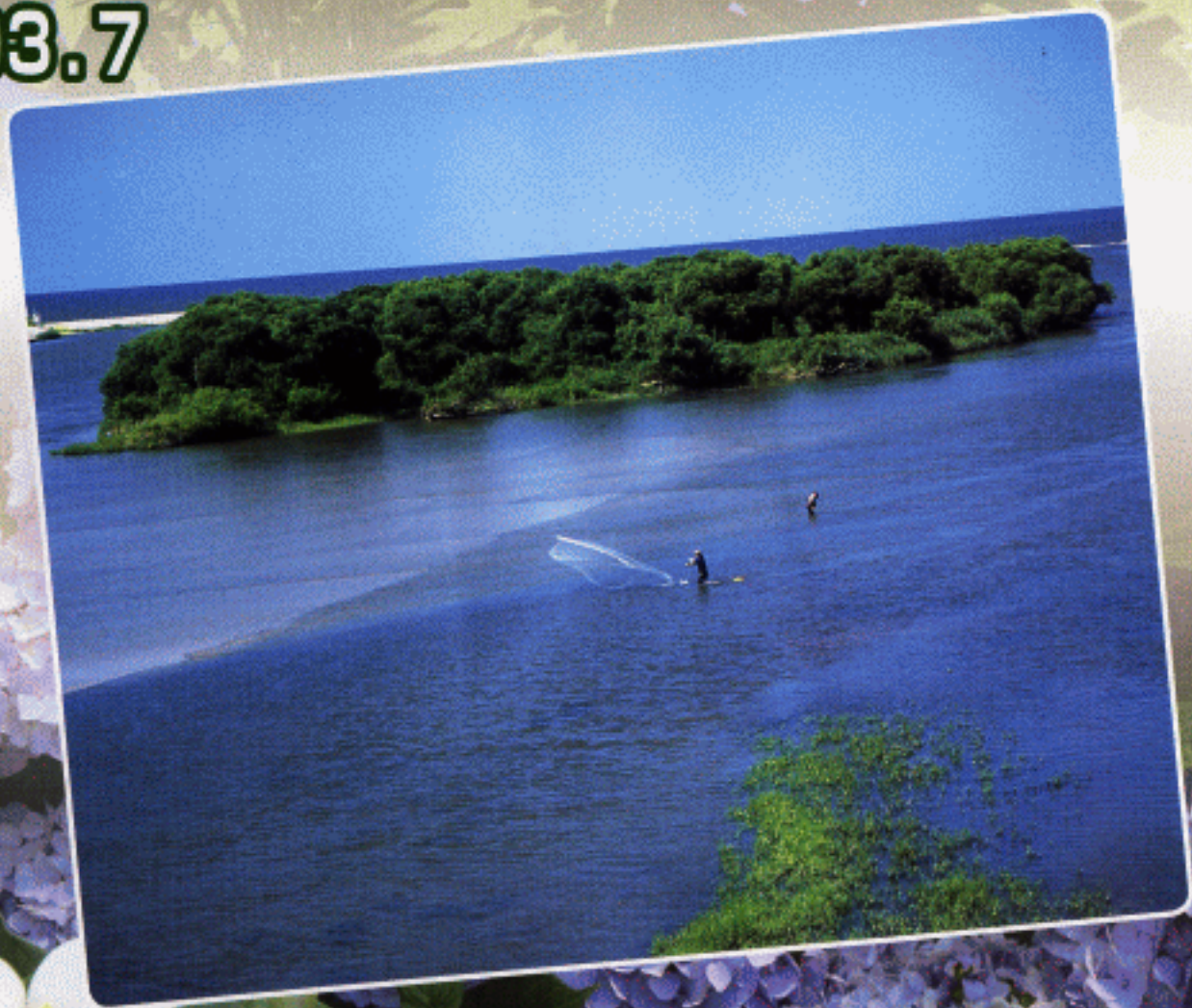
COMMUNICATION MAGAZINE.

GET HEART



ゲットハート

2003.7



特集 川を中心とした
地域活性化への取り組み

川を中心とした [会見町・金田地区] 地域活性化への取り組み。

「日常、何げなく生活を送っているふる里の中で、自然と歴史と文化とそして自分自身をもう一度だけ見つめなおしてみたい。皆んなで元気を出そう。」——西伯郡会見町金田地区で平成13年(2001年)に開催された第1回「小松城まつり」(主催/金田公民館)のテーマとしてこう記されています。

金田地区は、45世帯、人口180人の集落。かつてここには同地区を含む七つの集落を治める小松一族が「小松城」を築城し治めていました。ところが、延元元年(1336年)に、出雲の武将塩冶貞教によって攻め込まれ、一族は滅亡。その数年後、戦場で無念の討ち死にした武士たち

の霊が舞い戻ってきたため、村人たちは霊を弔うために盆踊りを始めた。そして、霊は小松谷の川面に乱舞する147匹の悲しい螢になったという言い伝えが残っています。

会見町

「小松城まつり」は、このストーリーと「ほたるの里づくり運動」とを組み合わせたイベントとして企画され、毎年6月初旬の夜は初夏の風物詩として多くの見物客でにぎわっています。しかし、目的は決して地域のにぎわいづくりにあるのではなく、「ほたるの住めるような自然環境をつくり守っていく。それが、人間にとって最適な生活環境である。」という思いがあります。

金田地区



お問合せ先
 会見町役場産業課
 TEL 0859-64-3783

小松城まつり

小松城山道の整備



「小松城まつり」

地区内外に「ホタルの里づくり」の理解を深めようと始まった「小松城まつり」。昔からこの地に伝わる物語とホタルを結びつけたこのイベントは、小さな集落からの環境保全に対するメッセージでもあります。

毎年、6月初旬に行われるこの祭りは今年で3回目を迎え、町内のみならず近隣の市町村からも多くの方が来られています。太鼓や小松谷盆踊り保存会による盆踊り、その他色々な催し物や祭り定番の夜店も並び、子供からお年寄りまで楽しめる祭りですが、クライマックスは何と言っても、地元で伝わる悲しい物語になぞらえた竹筒提灯行列でしょう。地元の方々

手作りの竹筒提灯を手にし、小松城跡より金田川への行列は提灯のほのかな灯りがホタルの乱舞を思わせ、物語の悲しさをも思わせませす。



小松谷盆踊り

竹筒提灯



ほたるの里づくり

「金田川 ほたるの里」

「我々の子供のころは、ホタルがようけおって菜種のカラで捕ったもんだが、もう一回ホタルを飛ばかしてみらいや。」二、三人の雑談の中から始まった「ホタルの里づくり運動」。

地区の皆さんによる、川やその周辺の清掃、種ホタルの収集、餌になるカワニナの放流、生活廃水の浄化など川に対する配慮を、ほぼ10年つづけ、近年、社会の環境に対する意識が変わってきたこともあり、やっと今日のようなホタルの群生が見られるようになりました。

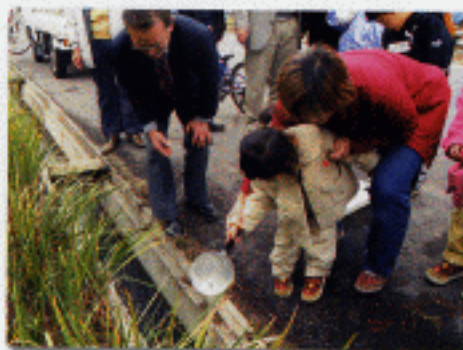
環境の大切さを地区民が共通の理解をしようと、環境講演会を開きその中で得たものを実践する努力もしました。当初、金田川の金突橋という点だけだったホタルの群生は、上、下流へと広がり、今では、近隣を流れる宮谷川、金突川へと横の広がりを見せています。「ホタル橋」から「ホタル川」そして「ホタルの里」へと地区の皆さんの思いは着実に広がっています。

ホタルの見ごろは6月上旬～6月中旬、蒼白いほのかな光のリズムを、ただじっと見つめているだけで、心まで浄化されるような不思議な感覚にとらわれてしまいます。



整備された金田川上流

子供達による幼虫の放流



川に親しむ

「西伯町林業研究会・樹言塾」事務局長
 藤原 良一 さん (西伯郡西伯町)



藤原 良一さん

日野川・法勝寺川周辺の西伯・会見・岸本の各町に在住の農業・林業等にたずさわる約50名が参加する西伯町林業研究会「樹言塾」。その事務局長を務める藤原さんは、「中山間地域の林業にこだわる者の集まり」と会のことを説明する。その名前は「水も空気も森から生まれている。森の大切さを木々が訴えている」という藤原さんの思いからのネーミング (wood message school) だ。

平成4年に西伯町の「ふるさと創生事業」交付金を受けて発足。それ以来、10年以上にわたって県外先進地への視察見学会や地域で「塾」の開催などの事業を展開している。西伯町が新しい時代への取り組みとして展開する「百年の森構想」や「森の学校」にも参画しており、メンバーは其中で木工細工や林業体験学習などのインストラクターを務めている。

「会の認知度はまだまだ。もっと活動をPRしないと」と語る藤原さん。「水辺環境の問題」「川上・川下の問題」「環境浄化の問題」など活動のテーマは多彩だ。藤原さんにとっては中でも「地域発展の偏重」が最大の関心事。「これまでは人口集中地域に公共事業が集中していた。例えば上下水道の整備にしても地域差は依然として大きい。生活関連基盤の整備なくしては地域の発展は無い。中山間地が過疎化していった原因の一つ」という。



先進町の林業施策調査

「戦」後50年が経ち、産業の発展に伴って木々が伐採され、それを補うために植林事業もされてきたが、森として機能をしていない現状がある。みんなに「私たち一人ひとりが、森を守るために何か活動をしなければ」という共通の思いが出来れば、森は生きてくると思います」と会活動の意義を唱える。「私たちは森の中で生まれ育って、そしてやがて土にかえっていく。私たちは森から水や空気をもらい生きている。これに恩返しをしていきたい」というのが心からの願いだ。

スタートから10年が経ち「一つの活動の区切りとして、活動の方向性を見出したい」という藤原さん。「地域から、もっと地球的な規模で、森と水とのかかわりができる事業展開をしていきたい」と夢を語る。そして一方、「地道で良いから長続きするような取り組みをしていきたい。町民ひとりひとりの活動にまで結び付けていけたら。幼稚園や保育園、小中学校の子供たちにも森への思いが伝わって行けたらうれしい」と次世代への広がりにも思いをはせる。



森林施策の調査



西伯林業研究会
樹言塾
 〒683-0351 西伯郡西伯町法勝寺
 TEL (0859) 66-2102 (西部森林組合内)

日野川今昔

故きを温ねて

出雲街道をゆく



出雲街道をゆく

最終回

● 舟場の渡し ●

溝口から日野川を渡り二部に泊まった参勤交代の行列は、間地峠を越え今の日野町舟場に着く。舟場の渡し場は舟場川の河口から50メートル程日野川の上流にあたる地点で、そこに舟小屋と渡し場があった。

渡し場附近の川幅は20間(約36メートル)深さ4尺(約1.2メートル)渡しは両岸にはった綱を手繰って渡る綱越しであった。



渡し場の一町(約36メートル)ほど上に5尺5寸(約76センチメートル)の深さのところがあり歩いて渡ることができた。

川渡しの人夫が必要なときは、助郷と呼ぶ、使役で周辺の農民が動員された。

対岸の根雨船着場は、舟場の真向かいにあった。そこで舟から上がれば根雨宿の北端、二軒茶屋から根雨宿の町中に入った。かつてあった一里松等の痕跡はない。国道、JR伯備線を造成した盛り土の下に埋もれていると思われる。

(監修：米子市立山陰歴史館)



夏の「味」

「蕎麦」(そば)

古くから日本人に愛されてきた“そば”が、いまの形になったのは江戸時代からと言われ、それ以前は“そばがき”であったようです。そばの風味を生かすには“そばがき”に限るとか。女性にも人気でダイエットにも良い健康食品として注目されています。

そもそも、“そば”は栄養価が高く特にタンパク質・ビタミンB₁・B₂に関しては、穀物中最高とされています。その理由は、米・小麦など穀類のほとんどが、精製により、栄養たっぷりの胚芽の部分を取り除き、胚乳部だけを食べるのに比べ、そばは胚芽や種皮の一部も食用にできるからです。

現在、日本全国には、こだわりを持ってそば作りをしているところはたくさんありますが、今回はそのひとつとして、鳥取県日野郡の4町(日南町・日野町・江府町・溝口町)で構成された「日野郡そば研究会」を組織し、そばをキーワードとした地域づくり、活性化を目指し、取り組んでおられる「日野のそば」を紹介します。



「日野のそば」が味わえる店のひとつに“出雲街道根雨宿二番館そば道場たたらや”があります。日野郡産蕎麦を自家製粉し、地元の水で手打ちをする“そば”は、出雲そばとちがい、やや白っぽい。メニューに種物は一切なく、そば自体の味をあじわえるようにと「ざる」「おろし」「かまあげ」の三種のみで、中でも「おろし」は県内産辛み大根との相性も抜群。その名の通りそば打ちの体験も出来る。県外・地域外からの来客も多く、岡山・広島・出雲そばの産地島根県からの来客が特に多いとか。営業時間は11時30分～14時という短時間にもかかわらず、年間を通して多くの人が訪れ、その理由はやはり、こだわりと情熱を持った味にあるようです。「色々な水をためてみましたが、中国山地に抱かれ、豊かな森から湧き出て日野川へと流れる“きれいな水”と豊かな自然の中で育てられた“蕎麦”地元産の蕎麦には、地元の水がいちばん良く合うんです。」と語られるそば打職人の安達さん。「そばの味は、挽きたて・打ちたて・茹でたての三たてが真髄ですが、打つ人によって色々な味になります。そば粉の割合は、独自の割合があり、それが店々の特徴です。私たちは地元産の蕎麦ときれいな水、それに取り組む人たちの熱意で、ここでしか味わえないそばの味を提供していきたいと思っています。研究会の参加店はそんな人たちばかりです。」と沸まちづくり日野 総務部長の石田さんは語られる。これからの暑い時期にはざるそばが恋しい季節、秋11月ごろには新そばが味わえる。

出雲街道根雨宿二番館 そば道場 たたらや
 日野郡日野町根雨671-1
 TEL・FAX 0859-72-2261
 定休日/毎週水曜日
 営業時間/11:30～14:00



第5回 日野川フォトコンテスト入賞作品 一般Aの部 山本 麗正さん
皆生大橋・日野川

水辺のウオッチング

—表紙「漁」—

日野川にかかる皆生大橋から、投網をする漁師の姿が見えた。その奥には日本海も見える。川の魚、海の魚、いったいどんな魚が捕れるのであろうか。川と海と青空の青さがまぶしい。いつまでも多くの魚が住む清流であってほしい。

日野川流域 ものしり手帳

日野川、 もの知りさんに聞いてみよう・13

ちょうせいち 調整池

みなさんは、下の写真①のような建物を見たことはありませんか。この建物は私たちの生活ととても深い関わりを持っている水道の施設で「調整池」といいます。ということで今回は米子市水道局さんにお話をうかがいました。

米子市にある水源地のうち車尾と福市には、調整池という貯水タンクがあります。写真でも分かるようにドーム型をしています。車尾水源地には2基、戸上水源地（福市地内）には4基あります。一番大きい調整池は、内側の直径が46.6m、深さ5mの大きさで、8,500m³の水を貯めることができます。6基全部では37,000m³の水を貯めることができます。これは、学校にある25メートルプール約85杯分に相当します。

米子市のみなさんが使っている水道水は、ほとんどが地下水を汲み上げた水です。写真②のような井戸で汲み上げた水はいったん調整池に貯められます。そのままでも飲むことが出来ますが、さらに滅菌してみなさんの家庭や工場、遠くは境港市まで送られています。地下水のため、一年中、水温、水量にほとんど変化がありません。また汲み上げる水も一定の量が確保できます。この水を効率的に利用するため調整池に貯めておき、1日の中で使用量の多い時間帯（朝6時～9時、夜6時～9時）には貯めた水を使用し、逆に使用量の少ない時間帯（昼2時～4時、深夜1時～5時）には減った水を補給しています。このようにみなさんの生活に合わせて供給する水の量を調整する施設を調整池といいます。

また戸上水源地にある調整池には災害時などに備えて応急給水装置（写真③）という機械があって、断水したときなどに直接給水車に飲料水を給水することができるようになっています。

米子市水道局の隣に水道記念館があるので是非行って見て下さい。米子市水道のあゆみがよくわかりますよ！

米子市水道記念館

所在地…米子市車尾123番地
(0859) 32-6111
開館時間…午前9時～午後4時
休館日…土曜・日曜・祝祭日・
年末年始(12/28～1/4)



写真①調整池



写真②取水井戸



写真③
応急給水装置



イベントあんない

INFORMATION



●米子市

「第23回全日本トライアスロン皆生大会」

平成 15 年 7 月 20 日 (土)
問い合わせ先……全日本トライアスロン皆生大会本部
TEL 0859 - 34 - 2819

「第 30 回米子がいな祭り」

平成 15 年 8 月 2 日 (土)・3 日 (日)
問い合わせ先……米子市経済部観光課
TEL 0859 - 22 - 5213

●江府町

「江尾十七夜」

平成 15 年 8 月 17 日 (日)
問い合わせ先……江府町観光協会
TEL 0859 - 75 - 6007

●日野町

「第26回中国山地日野「鵜の池マラソン大会」

平成 15 年 7 月 27 日 (日)
問い合わせ先……日野町教育委員会
TEL 0859 - 72 - 2107

●国土交通省日野川河川事務所

「森と湖に親しむ旬間」

平成 15 年 7 月 20 日 (土) ~ 31 日 (日)
場所……鳥取県日野郡日南町菅沢「菅沢ダム」
イベント内容……ダム内部一般公開、ダム湖遊覧など
問い合わせ先……国土交通省菅沢ダム管理支所
0859 - 87 - 0311

●境港市

「第 58 回みなと祭」

平成 15 年 7 月 26 日 (土) ~ 7 月 27 日 (日)
問い合わせ先……境港市観光協会
TEL 0859 - 47 - 3880

●岸本町

「オールジャパンジュニアトライアスロン in 岸本」

平成 15 年 8 月 24 日 (日)
問い合わせ先……岸本海洋センター
TEL 0859 - 68 - 3775

7月7日は 「川の日」

7月には七夕があり、河川愛護月間であるとともに水に親しみやすい季節です。

河川とその地域の人達との関わり・歴史・河川の魅力について広く皆さんに知ってもらうために、近代河川制度100周年にあたる平成8年に制定されました。

編集後記

水の冷たさが心地よい季節となりました。裸足になって足先を川に浸ければ日ごろの疲れをせせらぎが癒してくれる。水辺の生き物たちとふれあい、時間がゆっくりと流れていく。

7月は「河川愛護月間」で、7月7日は「川の日」です。日野川流域には小さなお子様づれでも安全に川と親しめる施設が各地にあります。

この時季、皆さんもちょっと出かけて川とふれあってみませんか。

N.M

あなたのところを

GET HEART

GET HEART 第 23 号

発行
・日野川への想いを語る会

編集事務局
・国土交通省日野川河川事務所

〒 689 - 3537
米子市古置千 678
TEL (0859) 27 - 5484

ホームページアドレス <http://www.cgr.mlit.go.jp/hinogawa>

「川」について、意見、質問、要望、何でも受け、便りください。待つちようけんね。

